



PipeLine

特集

分科会
「外国語」「日本語・日本事情」

英語

English language

アラビア語

フランス語

Français

中国語

中文, 華語, 漢語

朝鮮語

조선말, 한국어

ドイツ語

Deutsch

ジャワ語

ポルトガル語

Português

ロシア語

русский язык

スペイン語

español

日本語/日本事情

Japanese &
A Japanese situation

ヒンディー語

No.42 Contents

特集 分科会「外国語」「日本語・日本事情」	P1~4
教養のページ 人類の未来を左右する生物多様性	P5~6
FD部会報告 Clicaで瞬間参加型授業	P7~8
共通教育学生委員会レポート 「SPODフォーラム」を終えて	P9
Information 共通教育実施機構からのお知らせ	P10

「外国語分科会」紹介



外国語分科会では、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」「韓国語(朝鮮語)」「スペイン語」の授業を開講しています。今回は、専任教員が担当している「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」について、各言語の代表者が、授業の目的や特色、また、受講生への要望などを述べます。

英語授業について

English language



英語の授業の特色としては、1年生の時に必修科目として受講する「大学英語入門」と「英会話」があげられます。「大学英語入門」は英語の4技能をバランスよく養うことを目的としており、プレースメントテストを実施して初級、中級、上級のクラスに分けていますので、各自の能力にあった授業が受けられます。また、「英会話」はすべて英語母語話者によって教えられていますので、生(なま)の英語に触れ、英語でコミュニケーションをとる練習ができます。また、上級レベルの英語運用能力を身につけたいと願う学生のためにE P I C(国際英語コミュニケーションプログラム)という集中学習プログラムが設けられています。

英語の授業は、国際的なコミュニケーション手段としての英語のスキルを上達させるとともに、海外の、特に英語圏の文化を学び、またそのことを通して自国の文化を顧みる貴重な機会でもあります。受講生の皆さんには、英語の授業を世界に目を向けるきっかけとして活用して欲しいと思います。

(吉門牧雄)

フランス語授業について

Français



英語が世界の共通語としての地位を確立して以来、第2外国語としてのフランス語はその重要性を減じている。古くは世界語としての輝きを帯びていたフランス語であるが、現在では英語の重要性とは比べ物にならない。だから学生たちが大学に入学して、第2外国語としてのフランス語を学ぶ際にも、なぜフランス語を学ばなければならないかの動機付けが困難だろうと思う。実用的な意味では英語が出来ればよいし、第2外国語を学ぶ理由とされる教養主義は「没落」とされてから久しいからである。だからフランス語の授業では手堅く初歩的な文法を学ぶように努め、簡単な作文や必要最小限の発音練習を行うのがいいと思う。学生の側でも、英語のあとで学ぶ第2外国語であるから、基礎的な知識を獲得することを目指すべきだろう。教員が過剰な期待を抱いて、要求水準をあげすぎてはならないのである。

(大西宗夫)

ドイツ語授業について

Deutsch



ドイツ語の授業は、「ドイツ語I」「ドイツ語II」「基礎教育ドイツ語」の三種類の授業を開講しています。

「ドイツ語I」は、ドイツ語を初めて学ぶ学生のためのものです。発音練習から始まって、基礎的なドイツ語の文法を学んでいきます。「ドイツ語II」は「ドイツ語I」を修了した学生が、さらにドイツ語の運用能力を高めるための授業です。ドイツ語文法だけでなく、広くドイツの社会や文化についても学びます。「基礎教育ドイツ語」はいわゆる「中級」のドイツ語です。小説や新聞などの多種多様なテキストを読んだり、作文練習をしたり、異文化理解やコミュニケーションについて学んだり、と授業ごとにバラエティに富んでいます。

ドイツ人教師による「ドイツ語I」「ドイツ語II」「基礎教育ドイツ語」はいずれも会話中心の授業になりますが、受講生が「ドイツ語劇」を演じたり、プレゼンテーションを行ったりして、積極的に授業に参加できるように様々な工夫がこらされています。

(持尾伸二)

中国語授業について

中文 華語 漢語



中国語は、初修外国語の中では受講生が一番多い言葉です。お隣の国の言葉であり、人の往来も盛んであり、また(大まかにいえば)「世界の人口の5分の1がしゃべる言葉」でもあるので、当然とはいええます。

一方で、中国に対するイメージは、悪化の一途をたどっています。新聞やテレビでは、中国に関するネガティブなニュースを毎日のように見ることができます。

授業では、中国語を教えるとともに、できるだけ「生(なま)の中国」を知ってもらえるよう、努力しています。それは「中国を好きになってほしいから」というわけではなく(全く否定もしませんが)、「食わず嫌い」を脱却して、自分の眼で見て判断することを心がけてほしいからです。私の情報が新聞より客観的である、というわけではないですが、学生の皆さんには、「中国は怖い」一辺倒の現在のマスコミ報道を離れて、別の角度から、そして自分の眼で、中国を見てほしい、と考えています。

(高橋俊)

外国人留学生のための 「日本語・日本事情科目」



誰がどんな目的で 受けることができるか？

- ① 大学での専門教育を支障なく受け、理解する日本語能力を育てたい
 - ② 日本語によって積極的に他者の意見を理解する能力を育てたい
 - ③ 日本語によって自己の見解を分かりやすく伝える能力を育てたい
- 高知大学の留学生が受けることができます。

科目は2種類9科目で 内容は何か？

共通教育科目での外国人留学生のための外国語教育の一つです。科目には、日本語科目として日本語ⅠからⅣまで、日本事情科目として日本事情ⅠからⅤまであります。それぞれ科目名「日本語」は、日本語の読解・聴解・文法・会話に関する内容を、科目名「日本事情」は、日本の文化・政治・社会等、また高知の特色などの地域に関する内容を内容としています。

また、「日本語」科目は、例えばビジネスで使う日本語、今に繋がる古い日本語、また方言なども現在の日本語を知る上で、学んだりもします。さらに、日本語の使用場面、使用した際の相手の反応・効果、辞書で直訳的に母語と入れ替えたときのズレなどもできるだけ確認しながら、直接教授法を進めています。

どんな国・地域のどんな 学生が受けているのか？

現在、中国、韓国、台湾、マレーシア、タイ、スウェーデン、エジプト、モンゴルなどの国・地域の留学生が受けています。

また、留学生の種別では、大きく私費外国人留学生と国費外国人留学生と政府派遣留学生と交換留学生に分かれます。そのうち、私費外国人留学生、政府派遣留学生に正規学部留学生、非正規いわゆる学部特別聴講生に交換留学生がいます。短期留学生としては、交換留学生と国費の

日本語・日本文化研修留学生(通称、日研生)がいます。

中には、日本人の学生が単位と関係なく来たりもしています。例えば、教育学部の外国語の教師をめざす学生が、教授方法などに関心があり、教授方法を身に付けたいといった動機や目的を持ってきているようです。クラスによっては、人数制限とか事情がそれぞれあると思いますので、すべてのクラスに参加とはいかないかもしれませんが、日本人学生も是非自らの専門に、また日本語力アップにどしどし活用していただきたいと思います。

ただし、留学生たちもOKしてくれたらですが・・・

具体的にどんな授業か 受講生はどんな感想を 持っているか?

ここでは、例として、「日本語Ⅲ、Ⅳ」科目での中間アンケートから見てみましょう。

Q. 授業でどんなことがいいですか？

- A1. たくさんの日常的な語彙が学べる
- A2. あまり知らない知識が増える
- A3. 日本の日常生活が理解できるようになった
- A4. ビジネス日本語のみならず常識的な日本語も知ることができる
- A5. いろいろな状況で使われる表現を学ぶことができる
- A6. 外国人として日本人が考える日本語の語彙のイメージがどうなるのか学べる
- A7. 土壇場の場面やジレンマを持つ場面でどう対応したらいいか知ることができる
- A8. いろいろな考え方に気づき、異文化の接触ができて、考えを深めることができる
- A9. 漢字とか文法とか固くない雰囲気で学ぶことができる
- A10. わかりやすく詳しく教えてもらえる
- A11. 自国で習えない日本語が習える
- A12. 先生の発音ははっきりしていてよく聞き取れる
- A13. 自分の意見を自由に言えてお互いに話し合える

Q. この授業でどんな気分が味わえますか？

- A1. いろんな材料が入っているパフェを食べている感じでとても美味しい授業です
- A2. いろいろなテーマの日本語を勉強できて、日本語の実力が伸ばせやりの気分があるうれしい気分
- A3. いつも笑って時間が早く流れてもっと時間があつたらいいのという気分
- A4. みんなと家族のような気分
- A5. 楽しい気分です学生同士交流できて、国際的な理解ができる
- A6. いいたいこととか質問などを自由にできる重くない雰囲気
- A7. 相談みたいな気分
- A8. リラックスして楽しく落ち着く楽しく日本語で話せる
- A9. 日本語の深さを探検することがおもしろい 等々

さて、学生たちはこう言っていますが・・・本当はどんな授業でしょうか。興味のある学生は是非参加してみてください。

あの授業
どんな内容
なんだろう～?



人類の未来を左右する生物多様性

理学部 石川慎吾

皆さんは「生物多様性」という言葉を聞いたことがありますか？地球に生命が誕生してから約38億年という長い時間を経て、現在の生命の多様さがうまれました。生物多様性という言葉は、生命の多様さを支えている遺伝子・種・生態系という3つのレベルの多様性の総体をいいます。そして、それらがお互いにつながりを持って存在することで、生物多様性が保たれます。ところがいま、地球的な規模で生物多様性が急速に失われていて、人類の行く末に暗い影を落としています。自然に対する人類の影響が大きくなり続け、それに歯止めがかからなくなったことが原因です。

私たちの暮らしは、自然からの様々な恵みによって支えられています。ちょっと考えるだけで、自然から受けている恵みの多様さに気づくでしょう。まずは食料です。今日、皆さんは何を食べたでしょうか？ごはん、野菜、肉や魚などみな生き物です。私たちが口にする多くの食料は、野生の動植物から有用なものを選び出して改良された栽培植物や家畜ですが、魚貝類のように野生のものを直接捕って利用している場合もあります。衣類として利用している、綿、絹、羊毛なども生き物です。医薬品の原料などにも多くの生き物が利用されています。このように私たちが直接利用しているものだけでなく、生物多様性が保たれた豊かな自然は、多くの生物の生産活動を支えたり、物質や水の循環を正常に保ったりして、私たちの生活基盤を間接的に支えています。さらに、芸術や冠婚葬祭などの伝統的な文化も、その地域の生物多様性が支えてきました。これらの様々な自然の恵みを、最近では「生態系サービス」という言葉で言い表しています。まとめると以下ようになります。

①供給サービス

(食料, 原材料, エネルギー資源などの供給)

②調整サービス

(気候調整, 洪水制御, 廃棄物の分解など私たちが暮らしやすいように調整)

③文化的サービス

(芸術や祭祀など文化的・精神的なものを支え、バードウォッチングやエコツアーなどのレクリエーションを支えるサービス)

④基盤サービス

(栄養塩や水の循環, 土壌形成, 光合成による酸素の生成など他の生態系サービスを支える基本的なサービス)

これらのサービスは、生物多様性が保全された健全な生態系が存在することによって成り立っていますので、生物多様性を失うことは、私たちの生存基盤そのものが失われることを意味しています。その危機がひたひたと忍び寄ってきていることに、早くから多くの人気づいており、1992年に国連環境開発会議で生物多様性条約が締結されました。日本も1993年に締約国となり、1995年に生物多様性国家戦略が策定されました。その後、5年ごとに戦略の見直しが行われてきましたが、生物多様性条約の第10回締約国会議(Cop10)が2010年に名古屋で開催され、さらに世界と連携し、時代に即した国家戦略に改定されています。その内容についてはここでは触れませんが、日本の環境省は国家戦略を実効のあるものにするために、それぞれの地域の実情に即した戦略策定の重要性を指摘し、各県における生物多様性地域戦略の策定を促しています。高知県においても昨年度から策定作業に取り掛かり、本年度で完了する予定です。

生物多様性 小生

高知県の生物多様性地域戦略の理念は、「ふるさとのいのちをつなぐ ー豊かな生きものの恵みをうけて、美味しく、楽しく、ずっと暮らそう高知県-」です。高知の人と自然が作り上げてきた高知の風土は高知にしかなく、その特徴を見極める必要があります。高知の自然の恵みを受けながら、どのようにしたらこの高知で幸せを感じながら健康に暮らしていくことができるのか、そして自然の恵みを子孫につなげていくことができるのかを整理しています。そのための具体的な重点的行動計画として、4つのプランに基づく12の取り組みの実施が計画されています。以下にその一部を紹介します。

プラン1-生物多様性の価値を把握し、社会全体で共有する。

生物多様性の意義の普及・啓発が重要で、生物多様性の保全に配慮した思考を社会に根付かせようという意図があります。時間のかかる取り組みですが、特に、将来を担う子供たちへの環境教育などを推進していく体制の構築が急がれます。

プラン2-生物多様性を支え、次世代につなぐ仕組みと基盤をつくる。

ここでは調査と研究が重要な課題となります。絶滅危惧生物リスト(レッドリスト)の改定作業など、生物多様性保全に向けた基礎データの蓄積が必要です。高知県では人口減少が著しく、特に手入れ不足による里地里山の荒廃が急速に進んでいます。手入れされなくなった里地里山の生物多様性の低下は著しく、高知県ではもっとも頭の痛い問題です。中山間地域住民の増加と定着、コミュニティー機能の維持と再生を図るために、集落活動センターの設置などを急ぐ計画ですが、試行錯誤が求められそうです。

プラン3-自然環境の保全と回復を図る

高知県の森林率は84%といわれていますが、そのほとんどはヒノキやスギの人工林です。人工林の整備なくして高知県の自然の未来はありません。すでにいろいろな取り組みが進行していますが、森林にすむ動植物にスポットライトをあてて、生物多様性に配慮した森林整備を進めていくように求めています。そして、山から里、川、海へとつながる自然の連続性の確保が重要で、そのための施策と関連する主体の連携を示しています。地球温暖化の防止や循環型社会の構築に向けた取り組みの推進もこのプランに盛り込まれています。

プラン4-生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化を促進する。

高知県の生物多様性を地域資源として、食文化や伝統産業の継承・振興、体験型観光への活用を促進する計画です。一次産業は高知県の基幹産業で、しかも生物多様性の保全に直結した産業です。わが校の農学部での多くの優れた研究成果が、高知県に大きく寄与してきたことは論をまちませんが、高知県として、生物多様性という切り口でそれを更に推進していきたいという意思が示されています。

このようにみていくと、生物多様性の保全は極めて学際的な問題であることが分かります。大学において専門的知識を習得することはもちろん大切ですが、人類の未来を見据えることのできる広い視野を持つことも同時に大切なことだ、ということを生物多様性という言葉が教えてくれています。共通教育を受けることによって、多くの学生が豊かな人間性を育んでくれること、そして、ときどき生物多様性についても思考をめぐらしてくれることを願っています。

Clicaで瞬間参加型授業

共通教育実施機構 FD 部会長
立川 明

PRS (personal response system) は、大講義室でも使え、一瞬で授業の雰囲気を変えることができるため、専用カードが出て以来多くの大学で導入され、使われてきました。大学によっては、各自1枚カードを携帯し、授業中に個人の専用カードを使って回答することで、出欠管理に使うなど工夫しているところもあります。ただしこの専用カードが高価で、複数の教室で同時に使う、あるいは各自が1枚携帯するとなると相当な額になります。そのため、高知大学では一部の学部を除いて導入されていませんでした。この手のシステムは、常時使える環境が整って初めて使ってみようかという教員が出てきます。まったくないものをお試しすることはできません。そこで何とかこれを安価に導入する方法はないか、あるいは携帯等から回答する方法はないか検討をしてきました。まさにそのようなプログラム開発に入ろうとしたとき、Clica が無料開放されましたので、オンライン学習支援システムとの連携により、利用申し込み等の時間と手間を省略していつでも使いたいときすぐ利用できる様にしました。今後、このシステムを活用してくださる方が多く出てくることを期待しています。

Clica を使うにはまず教員が Clica システム内にコースを開講しなければなりません。まずオンライン学習支援システムにログインします。

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/lms/Login>

このページをブックマークしておきましょう。Clica へのログインにいつも使います。ログインには全学認証 ID とパスワードを使います。次に Clica を利用しようとするグループを作成します。オンライン学習支援システムでのグループ作成については、マニュアルを参照してください。

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/pdf/olssManual.pdf>

準備ができたら早速 Clica にコースを開講しましょう。オンライン学習支援システムの上部に表示されるプルダウンメニューの [リンク] ボタンをポイントすると [Clica コース管理] というボタンが出てきます。これをクリック (またはタップ) します。必要事項を入力して送信すればコース作成完了です。詳しくはマニュアルをご覧ください。

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/Clica%20teacher.pdf>

Clica を使うにはオンライン学習支援システムのプルダウンメニューから、[リンク]-[Clica ログイン] を選びます。上記の方法で作成したコースが見えますので、クリックしてコースに入ります。教員の画面には、教員用メニューが見えています。ここで出題メニューを実行すると回答できるようになります。詳細は上記のマニュアルを参照。

学生が回答するためには、教員同様まずオンライン学習支援システムにログインし、プルダウンメニューの [リンク]-[Clica ログイン] を選択します。自分が参加できるコースが見えていますので、それをクリックしてコースに入り、回答します。詳しくは学生用のマニュアルを参照。

<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/publication/Clica%20student.pdf>



オンライン学習支援システムから Clica システムに入ること、認証連携により専用の ID やパスワードを使わずに Clica を使うことができます。しかも自分のスマホで操作ができますので、何も準備してする必要がありません。スマホを持っていない人は、PC で利用可能です。

講義型授業をしていて、学生の反応がよくわからないため、すすめて良いやら説明が必要やら・・・？ ちゃんと理解しているかとか正確に伝わっているかとかも気になるけど・・・？ という先生も多いのでは。大事な話をしているときに限って寝ている学生が目についたりもします。じっと黙って着席している学生の脳は、時間とともに酸欠になります。

体を動かさないのに新しい情報だけが入ってきますので、脳だけが運動していてブドウ糖や酸素の供給は減ってきます。生理的に仕方ありません。そんなときに Clica の出番です。

10 分～ 15 分話をすれば重要なことが1つは出てくるでしょう。そこでクイズをしてみましょう。たった今話をしていた内容について、3～4つの選択肢の中から正解一つを選ぶような選択問題です。学生は Clica を使って解答します。まずはその意見分布を見ましょう。どの選択肢を選んだ学生が多いか、すぐにその場でスマホの画面上で見ることができます。この意見分布を参考に、近くに着席した学生同士でペアワークやグループワークをします。自分はこれを選んだがあなたはどれを選んだか？ それはなぜか話し合えます。どれを選んだか、それが正しいかを議論していても何も意味がありません。なぜそれが正解だと思うか、なぜそれ以外の選択肢では間違いなのかを議論させます。教員はその時学生の間をうろろと歩きます。どのように議論しているか、そしてその内容からどの程度自分の説明が伝わっているか知ることができます。学生にとってはたった今学んだ事柄を自分の言葉で説明する良い機会になり、よく記憶に残ります。教員は自分の説明が正確に伝わっているかどうかを知る機会になりますので、教員、学生の双方にメリットがあります。このミニワークの後、再度意見分布を調査しましょう。必要と思えば少し解説を加えた後、次へ進みます。

このとき Clica に接続したスマホや PC は、そのままの状態でも机の上に置かせます。授業中また Clica を使って解答してもらうことがあるかも知れないからです。そのたびにいちいちログインしていたのでは時間をロスしてしまいます。ただし、90 分授業でこのワークをはさむのは 4 回程度まで、どんなに多くても 5 回までにしましょう。Clica での解答→ミニワーク→Clica での解答を 1セットとして 4 回ないし 5 回までです。先行事例では、PRS を利用すると授業は確かに盛り上がり、質問も出るようになるそうですが、だからといって使いすぎると飽きてしまって解答しなくなるそうです。

高知大学の教員が市民大学や他大学での授業、学会などでこのシステムを使うためには、ゲストの参加を許可することで可能になります。ただしオンライン学習支援システムを教員権限で使える方でないと、認証連携による Clica の利用はできません。学生の皆さんの中には将来教員になる人もいます。卒業すればオンライン学習支援システムにはログインできなくなります。Clica は直接登録することで利用できます。このシステムを開発し、公開しているのは株式会社デジタル・ナレッジです。

<http://www.digital-knowledge.co.jp/service/it/clica/>



研修のご案内

共通教育では、Clica の利用方法、授業での活用方法について講習会を行います。希望される教員は共通教育事務へ申し込みください。

日 時：平成 26 年 3 月 5 日（水）13：30 ～

場 所：共通教育棟 3 号館 310 番教室

申込先：学務課全学教育 G 共通教育係 <gm06@kochi-u.ac.jp>

「SPODフォーラム」を終えて

私 たち学生委員会は毎年SPODフォーラムに参加しています。SPODフォーラムとは四国の大学生と全国の教員が集まり、今後より良い大学にしていけるための話し合いや講義、交流を行う場です。私たちはその中の「キャンパス元気プロジェクト きゃんぱす*こらぼれーしょん」に参加しました。この企画はこれからの学生生活を考える中で話し合っていたことに関してグループ内でテーマを決め、ディスカッションを行う企画です。



私のグループのテーマは「異世代との距離の縮め方」でした。学生生活は自分と同じ学生とはほぼ毎日関わっており、距離も近い。しかし、大学の教授や企業で働いている社会人などは講義講演を聴く、それだけで終わってしまっています。そこからの関わりがないのです。深い関わりを持ち、貴重な体験や話などをするために、異世代と距離を縮めたいと思いこのテーマに設定しました。他のチームは「人とのつながり」、「今みんなに聞いておきたいこと」など、人とかかわりを重視するようなテーマが多かったように感じました。

グ ループ活動を通して、自分が違うと思った意見に対して、そのまま否定してしまうことがあり、その話がそこで終わってしまうことがありました。他者の意見を受け入れ、よく考えてから発言するべきでした。そうすることで話しやすい雰囲気生まれ、活発に意見の交換ができます。また、他大学の学生とディスカッションすることで自分の大学にない取り組みを知り、視野を広くして話し合うことができました。

他 大学・教職員の人と話をし、尊敬の心を持って接すること、違いを受け入れること、そういった人と関わるときの当たり前のことを忘れていたことに気づくことができました。当たり前ですが尊敬の心を持って接することで、他者の意見も素直に受け入れることができます。私は普段人と接する時は距離を縮めようと走って行ったり、自分のことを積極的に話したり、笑いをとったり楽しみながら努力していましたが、尊敬の心を持って接することを忘れていました。なので、これからはその部分を意識してコミュニケーションをとっていききたいと思います。

時 に大学生の若さは社会人にエネルギーなパワーを与えることがあると伺いました。大学生だからこそできることがあり、パワーも与えることができます。今自分自身誰かに影響を与えるような人ではないと思うので、大学生だからこそ挑戦できることをやって、人にエネルギーなパワーのような影響を与える人になりたいと強く思いました。

全 体でグループの最終プレゼンを終えた後に、グループワークを通して自分のとった行動がグループにどう影響を与えていたのか、自分はどんな行動をとると良かったのかと振り返る時間があり、この2日間での自分の行動を見直すことができました。他のメンバーがどんな気持ちで取り組んでいたのかも共有しました。自分の意見をはっきりということができた、小さな意見がだんだん形になっていくことが嬉しかった、煮詰まった時も他のメンバーが違う視点からアイデアをくれた、など自分とは違う意見を多く聞くことができました。

こ のSPODフォーラムでは多くの他大学の学生や教員と接することで、以上のような刺激を受け、自分自身もこれから今回学んだことを意識して大学生活を送りたいと考えました。

ま た、私たち学生委員会は、大学生活をより良くするために活動している団体です。現在は主に去年実施した高知大学改善アンケートで、でた意見をもとに改善案を話し合っています。例えば、自転車の置き方のマナーが悪いことや、教室内のゴミの問題、他学部教授との交流が少ないことです。これらの改善のために呼びかけをする、駐輪場を増やす、啓発ポスターを貼りだすなどの案を検討しています。SPODフォーラムで得た学びや他大学の取り組みを参考にして、高知大学生がより良い大学生活を送れるようこれからも活動していきます。



“地域関連科目”とは？

平成26年度のシラバスより、「資格等」欄に“地域関連科目”という記述がある授業科目ができます。この“地域関連科目”とは、高知大学の理念「地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究の充実・発展を推進する。」の下に、地域が直面する諸課題を自ら探求し、幅広い視点で考え、その解決策を提案できる人材を育成するために地域を盛り込んだ内容を展開している授業をいいます。



イメージ

“地域関連科目”で取り上げている地域とは、高知県を指し、以下に掲げる人材育成目標を目指して、それぞれの授業において、高知県の事象を教材として具体的に取り扱った内容を展開しています。

なお、“地域関連科目”の授業数は、平成29年度にかけて段階的に増やしていく予定ですので、高知県に興味のある学生さんは、ぜひ履修してみてください！

(必ずしも全てのコマ(回)で地域(高知)に関する内容を扱っているとは限りません。)



イメージ

- ① 地域を志し地域再生・活性化に関心を持つ人材の養成
- ② 自らの専門的学びを地域再生・活性化に活かそうとする姿勢・意欲を有する人材の養成
- ③ 自らの専門知識を活かすために地域課題を理解する能力を持つ人材の養成
- ④ 地域再生・活性化のための地域協働を組織し管理するリーダーの養成

平成26年度に共通教育で開講予定の地域関連科目は以下の一覧表のとおりです。

開講学部等名	授業科目名
共通教育 初年次科目(6)	課題探求実践セミナー(地域協働入門I~IV、学校教育、生涯教育)
共通教育 教養科目(23)	土佐の自由民権運動、歴史を考える(地域からの日本史)、社会学を学ぶ(農村社会学の基礎)、魚食文化で世界を見る、森との共生を探る、温暖化とどうつきあうか、土佐の海の環境学I: 柏島の海から考える、サービスラーニング演習、中山間地域の生活と環境(I~II)、地域協働企画立案、地域協働実習I、地域協働自己分析、社会協働実践、協働実践自己分析、障がい者支援演習、土佐の自然と農業、環境を考える、地震の災害、流れと波の災害、海洋生物学、高知の農業と自然を実践して学ぶ、木の旅を辿る
共通教育 共通専門科目 基礎科目(3)	海洋生物学基礎実習、生涯教育論、教職入門A

編集後記

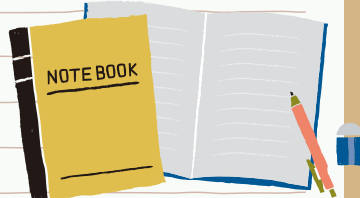
外国語、ひとつくらいマスターしたいね。そのために

日本語も磨かないと。(T)

教養科目にもネイティブ・スピーカーの先生方が

教えてくれる英会話の授業があるんですよ。

ぜひチャレンジしてみたら？(N)



高知大学共通教育広報誌 [パイプライン]
PipeLine No.42

発行/高知大学共通教育実施機構会議
編集/共通教育実施機構会議広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168(学務課共通教育係)

発行日/2014年1月
制作/南西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp